

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
麻生情報ビジネス専門学校	昭和60年12月24日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-32 (電話) 092-415-2291				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	理事長 麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
目的	基本情報技術者試験の取得、プログラマ実践力に加えて、システムの設計、構築ができるシステムエンジニアを育成する						
分野	課程名	学科名	専門士		高度専門士		
工業	工業専門課程	情報工学科			平成22年 文部科学大臣告示 第34号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3788	1964	2156	0	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人		100人	4人	4人	8人		
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日 ■後期: 9月1日から3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テストなどの総合評価			
長期休み	■夏期休業: 8月5日から8月31日 ■冬期休業: 12月24日から1月8日 ■春期休業: 3月1日から3月31日		卒業・進級 条件	ア. 指定科目全ての修得 イ. 学年の出席率90% ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 面談、保護者への電話連絡		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 情報サービス業 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する 平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・ 検定等	基本情報技術者試験			
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 平成28年5月1日時点において 在学者 106名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 102名 (平成29年3月卒業者を含む) ※ 中途転入者・転出者 なし ■中途退学の主な理由 他分野への進路変更 ■中退防止のための取組 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談		中退率	3.8%			
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/abcc/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教員が定期的に企業訪問を行い、IT業界の動向や即戦力育成のために必要となる知識や技術などを把握する目的で企業に所属しているエンジニアに対して業界動向や新技術のヒアリングを実施する。さらに、当校での就職をサポートしている部署が企業に対してアンケートを実施し、それらの結果を元に、授業科目の開設・変更・廃止に関する検討を行う。カリキュラム会議で授業内容や方法に関して話し合い、カリキュラム案を作成、教育課程編成委員会で(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項(3)教科書・教材の選定に関する事項(4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項に関して、各方面からの意見を集約し承認を得て授業科目の開設や方法の改善としてまとめる。使用するハードウェアやソフトウェアに関しては、授業運営を実践するために必要となるものを準備して効果的に授業を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や、地域産業振興の方向性などについて意見交換を行うことで、より実践的な職業教育の質を確保する事を目的とする。教育課程編成委員会で意見交換した内容や企業・団体からの要望などをカリキュラム会議にて精査し、次年度以降の授業実施科目、教科書教材の選定、および授業内容の創意工夫に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 サンレイズ 企画調査委員会 委員長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	①
開 道雄	キーウェア九州株式会社 経営管理部 担当部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
竹口 伸一郎	麻生情報ビジネス専門学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
荒木 俊弘	麻生情報ビジネス専門学校 校長代行	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
久家 政人	麻生情報ビジネス専門学校 リーダ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

原則:年度毎に2回実施

第1回 7月:前年度カリキュラムについて

第2回12月:1回目を受けて修正案説明(次年度カリキュラム)

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年7月1日 16:00～17:30

平成28年度 第2回 平成28年10月28日 16:30～18:30

平成29年度 第1回 平成29年6月30日 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

Java言語を基礎言語として履修し、Webシステム開発、Androidネイティブアプリ開発等の演習につなげるカリキュラムは、現時点では問題ないとの承認をいただいた。クラウド技術の活用は今後必須になるとのご意見をいただいたため。基礎としてLinuxコマンドを習得、その上で学内のサーバーを使用したシステムの構築演習、クラウドサーバー上のシステム構築演習へとステップアップするようにカリキュラムへ反映した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基礎知識を体系的に学習した学生に対して、実践能力を向上させる目的で研究テーマの選定や技術指導など、演習科目を中心に企業等と連携した授業を実施する。実践的な技術指導を受けるだけでなく、技術者と直接コミュニケーションの機会を多く持つように運用する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

卒業研究について設計技術、ドキュメンテーション技術及びチームマネジメントについての実践的な指導をいただく。成果物(システム企画書、各種設計書類、作成したソフトウェア)、プレゼンテーション、実機でのデモンストレーションなどと併せて総合的に判断し、学習評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
プロジェクト開発演習B	グループで各種テーマに対して、研究や調査、アプリケーション開発を行い、成果をプレゼンテーションする。企業の意見を反映してテーマを検討し、中間レビューや成果発表などで企業の評価をもらうことで実践力を育成する。	株式会社リサーチアンドソリューション

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。また、教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するために必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

テストフレームワーク入門
Javaプログラミング基礎

②指導力の修得・向上のための研修等

学則・学内規程研修、関連法規研修、コンプライアンス研修、インストラクションデザイン研修などを受講。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

UI(ユーザーインターフェイス)設計力向上研修
Windows Server 2016 管理1 - 基本管理編 - (7/18,19)(何か後期「Windows Server構築」のネタ研修7月までに)

②指導力の修得・向上のための研修等

学則・学内規程研修、関連法規研修、コンプライアンス研修、インストラクションデザイン研修などを受講。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・教育理念(建学の精神)・目的 ・目標、育成人材像を明文化しているか ・上記において職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んでいるか
(2)学校運営	・学校の管理・運営体制が確立しているかどうか
(3)教育活動	各学科の教育目標、育成人材像に向け ・カリキュラムの作成などの取り組みをしているか ・教授学習プロセスの改善への取り組みをしているか ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上に向けた取り組みをしているか
(4)学修成果	・各学科の教育目標、育成人材に向けてその達成への取り組みと評価がされているか

(5) 学生支援	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか(在学時)(卒業後) ・上記以外を通じての学生支援
(6) 教育環境	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて教育環境が整備・活用されているか
(7) 学生の受入れ募集	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで学生支援が整備され組織的に行われているか(入学前)
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・資産管理は適切におこなわれているか ・会計監査が適切におこなわれているか ・財務情報の公開の体制はできているか
(9) 法令等の遵守	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善のためのシステム構築がされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就職した学生の状況に関するお客様アンケートの結果について報告した。卒業生が企業および団体でどのような評価をもらっているのかを把握し、学校の運営改善を行っている取り組みを、今後も継続して取り組むようにコメントをいただいた。今後は、より活用出来るようにアンケート内容の改善を図り、学科の分析が可能なように形式の変更などを行い、更に有効なものとなるようにしていく事とする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中西 はるみ	保護者 情報工学科在校生 保護者	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	保護者
中園 晴久	卒業生 平成6年度情報経理科 卒業生	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	卒業生
浦川 美代子	自治会長 博多駅南1丁目1区 自治会長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	自治会長
大山 明	高等学校 久留米市立南筑高等学校 校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	校長
牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 サンレイズ 企画調査委員会 委員長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
江添 俊明	社団法人福岡県情報サービス産業協会 産学連携チーム チーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
土井 隆徳	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 ジャステック 産学連携チーム	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
馬場 伸一	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
芦原 秀一	株式会社 ネットワーク応用技術研究所 取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
高岡 宏光	三井情報株式会社 西日本営業部 西日本営業第三室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
開 道雄	キーウェア九州株式会社 経営管理部 担当部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
岡部 浩太郎	SCSK九州株式会社 ビジネスシステム部営業課 担当課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
竹末 雅輝	株式会社 システナ 福岡開発センター センター長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
小畑 昌之	安川情報システム株式会社 ソフトウェア研究開発センター 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
金丸 浩二	グローバルブレインズ株式会社 第1システム本部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員

白根澤 信孝	ユニアデックス株式会社 九州エクセレントサービス第二統括部 システムサービス二部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
松尾 英一	一般社団法人 日本経営協会 九州本部次長兼企画研修G課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
大久保 英昭	看公税理士法人 黒岩公認会計士事務所 所長代理	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
中川 宏	税理士法人 西方会計 副所長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
小林 憲一	小林憲一税理士事務所 所長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
岩永 茂敏	リコージャパン株式会社 九州事業本部 九州支社 MA事業部 公共担当室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
沖田 敏治	株式会社アイスリーラボ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
松尾 聡子	株式会社パース・プランニング 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
下部 貴志	株式会社Flourish 総務部 部長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
堀 浩信	福岡市経済観光文化局 国際経済コンテンツ部コンテンツ振興課 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
伊藤 寛通	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
今井 翔太	エピック・ゲームズ・ジャパン コミュニティー・マネージャー	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役 社長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
森 りょういち	株式会社FOREST Hunting One 代表取締役 社長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
矢野 修作	株式会社ディーゼロ 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員
小林 浩康	株式会社カラー 取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
公表方法: ホームページ <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 毎年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者、保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、出願資格、出願書類、選考方
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.asojuku.ac.jp>
URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abcc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ハードウェア／ソフトウェア概論A	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われるコンピュータの基礎理論、コンピュータの構成要素、ソフトウェア、OSの機能に関する基礎的な知識を学ぶ。	1前	130		○			○		○		
○			データベース／設計概論A	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われる関係データベース、正規化、SQL、DBMS管理、開発モデル、設計、開発、テスト、導入に関する基礎的な知識を学ぶ	1前	52		○			○		○		
○			ネットワーク／セキュリティ概論A	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われるネットワークアーキテクチャ、LAN、WAN、TCP/IP、ネットワークセキュリティに関する基礎的な知識を学ぶ	1前	52		○			○		○		
○			アルゴリズムA	基本構造、変数、配列、基本的なアルゴリズムの手法を学ぶ	1前	78		○			○		○		
○			プログラミング概論A	基本情報技術者試験 午後試験で問われる言語に関する基礎的な知識を学ぶ	1前	16		○			○		○		
○			ストラテジ／マネジメント概論	基本情報技術者試験 午前試験で問われるプロジェクトマネジメント、システム戦略、企業活動、法務に関する基礎的な知識を学ぶ	1前	26		○			○		○		
○			情報処理試験 午前対策	基本情報技術者試験の午前免除試験 直前対策	1前	24		○			○		○		
○			ハードウェア／ソフトウェア概論B	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われるコンピュータの基礎理論、コンピュータの構成要素、ソフトウェア、OSの機能に関する基礎的な知識を学ぶ。	1後	24		○			○		○		
○			データベース／設計概論B	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われる関係データベース、正規化、SQL、DBMS管理、開発モデル、設計、開発、テスト、導入に関する基礎的な知識を学ぶ	1後	48		○			○		○		
○			ネットワーク／セキュリティ概論B	基本情報技術者試験 午前・午後試験で問われるネットワークアーキテクチャ、LAN、WAN、TCP/IP、ネットワークセキュリティに関する基礎的な知識を学ぶ	1後	24		○			○		○		
○			アルゴリズムB	擬似言語表現によりアルゴリズム構造を学ぶ	1後	48		○			○		○		

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プログラミング概論B	基本情報技術者試験 午後試験で問われる言語に関する基礎的な知識を学ぶ	1後	24		○			○		○		
○			ネットワークセキュリティⅠ	TCP/IPに関する基礎的なネットワーク知識、WindowsOSのネットワーク設定やセキュリティ設定等を学ぶ	1後	40		○			○		○		
○			ネットワークセキュリティⅡ	LinuxOSのコマンドを学びネットワーク設定やセキュリティ設定等を学び、各種サーバーの役割を理解する	2前	56		○			○		○		
○			システム設計Ⅰ	プログラム仕様書の作成練習を通して設計書の役割に関する理解を深める	1後	20		○			○		○		
○			システム設計Ⅱ	Webシステム構築のための要件定義、外部設計、内部設計について実践的演習を通して理解を深める	2前	56		○			○		○		
○			ビジネスモデル概論	アイデア創出技法を学ぶと共に、創造したビジネスモデルの提案書作成技法を学ぶ	3後	60		○			○		○		
○			システム開発応用技術Ⅰ	業界の技術動向を知り、自らその技術を習得する。	3後	30		○			○		○		
○			システム開発応用技術Ⅱ	業界の技術動向を知り、自らその技術を習得する。	4後	30		○			○		○		
○			情報処理試験春期対策Ⅰ	春期情報処理試験対策を行なう	1後	80		○			○		○		
○			情報処理試験集中講義	秋期情報処理試験対策を行なう	1後	60		○			○		○		
○			情報処理試験春期対策ⅡA	春期情報処理試験対策を行なう	2前	48		○			○		○		
○			情報処理試験秋期対策ⅡA	秋期情報処理試験対策を行なう	2前	32		○			○		○		

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理試験 秋期対策ⅡB	秋期情報処理試験対策を行なう	2後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅡB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう	2後	24		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅢA (選択)	春期情報処理試験対策を行なう	3前	48		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢA (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう	3前	32		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢB (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう	3後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅢB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう	3後	24		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅣA (選択)	春期情報処理試験対策を行なう	4前	48		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅣA (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう	4前	32		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅣB (選択)	秋期情報処理試験対策を行なう	4後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅣB (選択)	春期情報処理試験対策を行なう	4後	24		○			○		○		
○			プログラミング 演習ⅠA	Javaプログラミングの基礎を学習し、制御文を中心としたプログラムアルゴリズムの理解を深める。	1前	84			○		○		○		
○			プログラミング 演習ⅠB	プログラミング演習ⅠAに引き続きJava言語を学習し、オブジェクト指向プログラミングの理解を深める。	1後	100			○		○		○		

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プログラミング演習ⅡA	JavaコアAPIを使ったプログラミング技術を身につける。	2前	56			○		○		○		
○			プログラミング演習ⅡB	デバッグを通じての問題とバグの解決手法を学ぶ。	2後	60			○		○		○		
○			プログラミング演習Ⅲ	ロジック構築力を身につけ、プログラム開発の手順を学ぶ。	3前	28			○		○		○		
○			プログラミング演習Ⅳ	セキュアなWebアプリケーションを開発するために必要なセキュリティの考え方や知識、技術について体系的に学習する。	4前	84			○		○		○		
○			データベース演習	データベースの概要を学習し、SQLの文法を身に付ける。	1後	40			○		○		○		
○			UIデザイン演習Ⅰ	HTML言語とスタイルシートにより基本的なWebページを作成するための知識を身につける	1後	20			○		○		○		
○			UIデザイン演習Ⅱ	JavaScriptにより応用的なWebページを作成するための知識を身につける	2前	28			○		○		○		
○			Webアプリケーション開発演習A	PHP/DBを利用したWebシステム構築に必要な開発技術を学ぶ。	2前	112			○		○		○		
○			Webアプリケーション開発演習B	PHP/DBを利用した実践的なWebプログラム開発をチームで行う	2後	150			○		○		○		
○			モバイルアプリケーション開発演習Ⅰ	Android上で動作するアプリケーションの開発における基礎技術を学ぶ。	2後	120			○		○		○		
○			モバイルアプリケーション開発演習Ⅱ	Android上で動作するアプリケーションを開発する。	3前	84			○		○		○		
○			サーバ構築演習	クラウド環境上にサーバーを構築しサービスを運用する手法を学ぶ。	3前	28			○		○		○		

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プロジェクト開発演習A	PHPを用いてWebシステムを作成する技術を学ぶ。	3前	196			○		○		○		
○			プロジェクト開発演習B	チームごとに設計・開発を行う。成果発表会にて開発した成果をプレゼンテーションする。	3後	240			○		○		○	○	○
○			卒業研究A	チームごとに研究テーマと目標を定め、システムの企画を行う	4前	280			○		○		○		
○			卒業研究B	卒業研究Aの企画を元に設計・開発を行う。成果発表会にて開発した成果をプレゼンテーションする。	4後	390			○		○		○		
○			GCB I	グローバル社会で活躍する社会人に必要な人間力を育成する。「感謝と思いやり」をテーマに学ぶ。	1前	16			○		○		○		
○			GCB II	グローバル社会で活躍する社会人に必要な人間力を育成する。「志」をテーマに学ぶ。	2前	16			○		○		○		
○			一般教養ⅠA	一般教養力としての文書作成力や読解力をつけるための演習を行う。	2前	28			○		○			○	
○			一般教養ⅠB	一般教養力としての数学の基礎能力向上を目的として学習する。	2後	30			○		○			○	
○			一般教養ⅡA	一般教養力としての数学の基礎能力向上を目的として学習する。	3前	28			○		○			○	
○			一般教養ⅡB	一般教養力として就職試験にて求められる言語能力、非言語能力の向上を目的として学習する。	3後	30			○		○			○	
○			英語リーディングA	英語の基礎文法を学び、英文を読める力をつける	2前	28			○		○			○	
○			英語リーディングB	IT技術者として必要な技術英単語の知識を深め、英語の技術文書が読める力をつける	2後	30			○		○			○	

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			英語コミュニケーションA	基本的な日常英会話を中心に英会話センテンスの聞き取り練習と、口答練習を行う	3前	28		○			○			○		
○			英語コミュニケーションB	ドキュメント作成、英語アプリ作成、情報交換ができる力をつける	3後	30		○			○				○	
○			就職実務ⅠA	就職活動において必要な準備を行う	3前	28		○			○			○		
○			就職実務ⅠB	就職活動において必要な準備を行う	3後	60		○			○			○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動において必要な準備を行う	4前	28		○			○			○		
○			ビジネスコミュニケーションⅠ	ビジネスコミュニケーションに求められる基礎スキル(チームワーク・聴く・読む・伝える)の大切さを理解させる	2後	30		○			○			○		
○			ビジネスコミュニケーションⅡ	ビジネスコミュニケーションに求められる論理的スキル(論理思考、説得交渉、問題解決手法)の大切さを理解させる	3前	28		○			○			○		
○			ビジネスコミュニケーションⅢ	ビジネスコミュニケーションに求められる提案スキル(論理思考、説得交渉、問題解決手法)の大切さを理解させる	4前	56		○			○			○		
○			ビジネスマナー	社会人としての心構えと言葉づかい、電話応対、来客応対、訪問のマナーなどの新入社員として必要なビジネスマナーを身につける	4後	30		○			○			○		
○			ビジネスソフトウェア演習Ⅰ	Microsoft社のOfficeソフトのうちExcelの使い方を学ぶ。	1前	28			○		○				○	
○			ビジネスソフトウェア演習Ⅱ	Microsoft社のOfficeソフトのうちWord, PowerPointの使い方を学ぶ。	2前	28			○		○				○	
合計					61科目		3788単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 卒業基準検定を取得していること。 	1学年の学期区分	2期

(工業専門課程 情報工学科)平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。								1学期の授業期間				15週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。